

第5学年1組 総合的な学習指導案

児童数 35名 場所 5年1組教室
指導者 T1 木村嘉身 T2 桑原敏則

1 単元名 アイガモ米から自分の食を見直そう！

2 単元について

(1) 児童の実態

本校の5年生の子どもたちは、6年前から毎年、農薬を使わない米作りに取り組んでいる。そのうちの5年間は、アイガモを使った無農薬の米作りをしてきており、本学級の子どもたちも、先輩たちのように、アイガモを使った無農薬の米を作って本校の1年生から6年生の子どもたちに食べてもらいたいと願い、米作りをしているところである。

子どもたちは、今作っている米に関しては、農薬を使わない体によいものを作って食べたいという意識で取り組んでいるのだが、自分の日頃の生活を振り返ると、全般的に食に関する意識が低いのが現状である。朝食を食べてきていてもそれが菓子パンであったり、給食を含め日頃の食事では好き嫌いがあったり、何も考えずスナック菓子をたくさん食べたり、のどが渇いたらすぐにジュースを飲んだりしている子どももいるようである。

栄養があるものをバランスよく食べないといけなかったり、無農薬の食べ物が体にいいこと、食品添加物がいけないこと、スナック菓子や清涼飲料水の飲み過ぎがいけないことなど、知識としては知っているが、それらについてなぜいけないのか深く追究したり、生活に生かそうと努力したりしている子どもはあまりいないようである。

(2) 教師の願い

平成17年に食育基本法が成立し、同年7月15日から実施されている。私たちにとって毎日欠かせない「食」をめぐる様々な問題は、私たち個人の問題というだけではなく、社会全体の問題となってきた。「食」を大切に作る心の欠如、栄養バランスの偏った食事、肥満や生活習慣病の増加、「食」の安全上の問題の発生、「食」の海外への依存、伝統ある日本（地域）の食文化の喪失など様々な問題が出てきている。これらの問題は、社会に任せなければならない部分もあるが、まずは、自分自身がこれらの問題を意識し、改善しようとしていく姿勢が大切であると考えます。心身共に成長するこの時期の子どもに対し、自分の食生活について考えさせることは、これから生きていく上で重要な意味があると思われる。

本単元では、はじめにこれまでの米作りを振り返り、なぜアイガモ農法による米を作ろうとしたのか改めて子ども一人一人に考えさせ、ウェビング手法を用いてこれからの学習について考えていきたい。そして、関連する内容ごとに整理し、子どもの意識の流れや子

どもの「食」に関する実態，米作りの時期などから，まずは，「食」について学習していくことを確認するとともに納得させたい。それと同時期に，教室や廊下等に「食」に関するニュースやデータ，本などを揃え環境を整えたり，「食」について考えるような課題を宿題等で与えたりすることにより，「食」への意識を高め，考える基盤となる知識を与えるとともに「食」についての視野を広めさせたい。導入場面で時間をかけることにより，子どもにとっての課題を身近なもの，切実なもの，よりよいものにしていきたい。また，この学習により，教師が子どもたちにどのような力を付けてほしいかをあらかじめ話しておくことにより，学習終了時におけるポートフォリオ評価を使った自分の成長の振り返りに役立てたい。

次に，その課題に基づき，自分がどのようなことについて追究したいかその理由と共に追究方法を考えさせ，同じような考えをもつ子ども同士をひとまとまりにしたグループ作りをしていきたい。その後，グループごとにめあてや追究方法を確認し，これからの計画を立てさせることで，学習の見通しを持たせたい。全部のグループが計画できたところで，それぞれのグループに自分たちの学習の計画について発表させ，互いにアドバイスを獲得する機会を与えたい。このような交流の場を何度か設けることにより，友達の意見を取り入れたり，参考にしたりしながら深まりがあるよりよい学習にしていくとともに，友達と学び合う楽しさや喜びを味わわせたい。

グループごとに学習活動を進めていく中で，学習したものを，だれに，どのような場面で，どのような方法で発信したいか考えさせていきたい。また，自分の日頃の食生活を振り返り，見つめ直す場を設けることで，自分の食生活を改善していこうとする意識や態度を育むとともに，家族に対しても食生活の改善を進める具体的な提案を考えさせたい。

これらの学習を通して，子ども一人一人がこれから生きていく上で重要な「食」についての意識を高め，これからも家族とともに安全で安心できるよりよい食生活を目指していこうとする実践的態度を育みたい。まとめの段階では，学習を振り返りながら，友達と協力して課題解決に向けて学習を進めることができた達成感，成就感を味わわせるとともに，この学習で自分の力が高まったことを実感させ，他の学習への意欲へとつなげていきたい。

3 単元の目標

「食」について考えたり調べたりする活動を通して，健全な食生活とはどのようなものなのか理解を深め，学んだことをこれからの生活に生かしていくことができるようになる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度

アイガモ農法による米作りからたくさんのことを考えようとする。

「食」に関する記事やデータを参考しながら，自分の食生活を振り返ろうとする。
友達と協力して，計画に基づき自分たちの課題を解決しようとする。

「食」について学んだことを、自分の生活に生かそうとする。

思考・判断

これまでの自分の食生活を振り返ったり、食生活に関する社会問題について調べたりしながら、自分の学習の課題を設定することができる。

友達や教師の支援を参考にしながら、自分たちで判断し、よりよい方向に計画を進めることができる。

友達の発表内容と自分が調べていることと関連づけて考えたり、友達の発表の仕方についてよいところを参考にしたりすることができる。

学んだことを基に、健全な食生活の在り方について考えることができる。

学習を振り返り、自分の成長について考えることができる。

技能・表現

これからの学習についてのイメージを膨らませ、ウェビング図に表すことができる。
課題を解決するために、インターネットや本で調べたり、人に聞いたりすることができる。

友達の発表について考えたことや疑問に思ったことなどについて、共感したり、提案や質問をしたりすることができる。

学んだことを、相手を意識しながら、自分の言葉で自分の考えを入れながら、分かりやすくまとめたり伝えたりすることができる。

知識・理解

現代社会における食に関する問題について理解する。

食と体との結びつきや食文化などについて理解する。

健全な食生活の在り方について理解する。

5 学習過程と指導計画（全 25 時間）

学習活動枠内：1 校時(45 分間)・・・1 h と記す

学 習 活 動	指導と支援（方法・内容）	評価規準と資料
1 これまでしてきた「塩田っ子タイム」(総合的な学習の時間)の活動を振り返ろう！ (学習活動 1 と 2 を合わせて 2 h)	・ 1 学期から総合的な学習の時間において取り組んでいる米作りについてスライドなどを用いて振り返ることにより、これからの自分たちの活動を考える手立てとする。	
2 これからの自分たちの学習	・ アイガモ農法が、食の安全や環	関・意・態

<p>について考えよう！</p> <p>3月までの学習活動の見直しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人、「米作り」からイメージすることを自由にかく。 それぞれの子どもが考えてかいたイメージ図（ウェビング図）を基にしながら、これからの活動について学級全体で話し合う。 <p>3 自分たちの日常の「食生活」を振り返る。 （学習活動3と4を合わせて1h）</p> <p>4 これからの学習の課題について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>自分たちの食生活を見直そう！</p> </div>	<p>境のことを考えて始めた学習であることを確認することにより、子どもがイメージする視点がずれないようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> これからの学習について一人一人に考えさせることにより、子どもがそれぞれ主体的に取り組む手立てとするとともに、子どもの理解に役立てるようにする。 学級全体で、協議することで、アイガモ農法に関連して自分たちがこれからやりたいことの方向性について導き出させる。 一人一人の子どもの意見が、全体で考えたウェビング図に活かされているか確認するとともに、安全な「食」について考える一つの方法としてアイガモ農法に取り組んでいることを確認しておく。 事前に、自分の日常の食生活について問うアンケートに記入させておくことで、学級全体の食生活に関する実態を把握しておく。 アンケート結果を示すことにより、アイガモ農法により、体に安全な米を作っている反面、日常生活においては食についての意識が低いことに気付かせる。 課外学習等で、現代社会における「食」についての実態や問題点、その他「食」に関して意識していた方がよいことについて調べさせておく。 「食」に関する記事を掲示した 	<p>（ウェビング図）</p> <p>技・表 （ウェビング図）</p> <p>関・意・態 （アンケート ・観察）</p> <p>思・判 （ワークシート ・課題学習ノート ・観察）</p> <p>知・理</p>
---	--	--

<p>5 「食」について、自分たちがどのようなことを意識したらよいか考える。 (2h)</p> <p>…本時</p> <p>一人一人、「食(食べる)」からイメージすることを自由にかく。</p> <p>一人一人が考えてかいたイメージ図(ウェビング図)を基にしながら、学級全体でウェビング図を完成させる。</p> <p>子どもがどのような内容に関心があるか、課題として考えているか一緒に整理しながらまとめる。</p>	<p>り、「食」について書かれている本を並べたりするなど、学習環境を整えておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の学習についての大まかな流れを説明する際、本單元においてどんな力が身に付くか知らせておくことで、自分の学習を振り返る際の自己評価等の手立てとする。 事前に「食」について調べた知識を基に、どのようなことについて関心をもっているのかウェビング図にかかせることにより、一人一人の「食」への意識を高める。 これから考えていきたいこと(課題)を、子どもと話し合いながら内容ごとに分類する。 	<p>(ワークシート)</p> <p>技・表 (ウェビング図)</p> <p>思・判 (ワークシート)</p>
<p>6 自分が調べてみたい課題を見付ける。 (0.5h)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分類した課題の中から、自分が特にどのことについて調べたいか選ばせる。その際、自分の生活と関連させながら理由についても考えさせる。 次時の学習に入るまでに、一人一人の児童と課題やその理由(目的)、到達点(ゴール)を考えた計画とともに、自分がどのグループに入るか確認をしておくにより、グループ分けにおける混乱を防ぐ。 	<p>思・判 (計画表)</p>
<p>7 グループに分かれて、それ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 類似した内容の子ども同士で 	<p>関・意・態</p>

<p>それぞれの課題やめあて、今後の計画、ゴール等について話し合う。(2h)</p> <p>予想される内容</p> <p style="text-align: center;">事項のみ記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品添加物 ・お菓子 ・清涼飲料水 ・朝食 ・輸入食品 ・栄養価 ・食と病気(健康)・・・など 	<p>グループをつくらせるとともに、グループで課題を追究する活動の良さについても説明しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの話し合いの際、あらかじめ、一人一人の意見を大切にすることを確認しておく。 ・グループの人数は、活動のしやすさを考えて3～6人を目安とする。 ・すべてのグループが計画ができた段階で集まり、グループごとに決まったことを発表させ、質問を受けたり意見を交換したりすることで、今後の計画の進め方に役立てるようにする。 	<p>(観察・資料 ・振り返りカード)</p> <p>技・表 (観察 ・振り返りカード)</p>
<p>8 計画に沿って、活動する。(4h)</p> <p>予想される活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の図書室で調べる ・塩田町の図書館で調べる ・インターネットで調べる ・栄養士の先生に聞く ・準備された資料で調べる ・スーパーに行って調べる ・町の人に聞く ・家の人に聞く ・友達にアンケートをとる ・・・など 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に意欲をもって活動させるために、グループで役割を分担して、それぞれが調べて、分かったことを持ち寄るようにする。 ・学習の振り返りについては、活動のまとめりごとに時間を確保し、子ども一人一人に自己評価をさせる。 ・電話の対応や人との接し方など、スキルのなことについては、十分練習させておく。 ・子どもの計画について十分把握しておくことにより、子どもの行動や要求等について予測しておく。 ・町に出かけるグループ等については、保護者にボランティアとしての協力を依頼し、支援に当たってもらう。その際、保護者との打合せには十分時間をとるように心 	<p>技・表 (観察 ・振り返りカード)</p> <p>思・判 (観察・計画書 ・ワークシート)</p> <p>知・理 (観察・日記 ・ワークシート)</p>

<p>9 中間報告会をする。 (1 h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの報告 ・意見交換 	<p>掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループのいいところを参考にさせたり，活動が遅いグループにアドバイスをさせたりする。 ・中間報告会の前に，どのグループも学級みんなで話し合った同じ課題に向けて取り組んでいることを確認しておく。 	<p>技・表 (観察 ・振り返りカード)</p> <p>思・判 (観察 ・振り返りカード)</p>
<p>10 計画を見直す。 (0.5 h)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会で友達や先生にアドバイスをしてもらったことを参考にしながら，グループごとに計画の見直しをさせる。 ・計画の変更については，必ず先生に報告するようにしておく。 	<p>思・判 (計画表)</p>
<p>11 改めて考えた計画に沿って，活動する。 (3 h)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことをグループ内で役割を分担し，いろいろな方法でまとめさせる。 ・パソコンを使ってプレゼンテーションを行うグループについては，情報担当の先生に支援に当たってもらう。 	<p>知・理 (観察・日記 ・ワークシート)</p>
<p>12 調べたことをまとめる。 (3 h)</p> <p>予想される発表例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広用紙 ・ 紙芝居 ・ パワーポイント ・ 大型絵本 . . . など 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表する相手や発表する場所を意識させることにより，まとめ方を考えさせる。 ・発表の際は，必ず自分の意見や感想，疑問に思ったことなどを入れることを伝えておく。 ・調べたことや分かったことをまとめたグループから発表練習をさせる。 ・練習の時は，発表するときの留 	<p>技・表 (作品・観察)</p>

<p>13 まとめたことを発表する。 (3 h)</p> <p>練習</p> <p>リハーサル</p> <p>本番</p> <p>予想される対象と場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：塩田小学校の子ども 場所：塩田小学校の体育館 ・対象：地域の人 場所：南楓館・・・など 	<p>意点をあらかじめ示しておき，その点について気をつけることを確認しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハーサルでは，一つのグループの発表を，聞く人の立場になってみんなで聴き，発表するグループの参考になる意見を言うように確認しておく。 ・対象や場所については，子どもたちに話し合わせ，交渉等についても子どもたちに任せる。 	<p>技・表 (観察)</p>
<p>14 学習を振り返りながら，これからの自分の食生活の在り方について考える。(1 h)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを基に，自分の食生活を振り返りながら，自分自身の食の改善に向けて自分ができることを挙げさせる。その後，それを実行するにはどうすればよいかその方法についても考えさせる。 ・自分が立てた実行計画書を友達と見せ合うことにより，実行に向けての意欲を高める。 	<p>関・意・態 (提案書・日記 ・実行計画書 ・家族の感想)</p> <p>思・判 (提案書・日記 ・実行計画書 ・家族の感想)</p>
<p>15 家族を対象とした食に関する自分の考えを，家族に提案する。(1 h)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを基に，食の改善に向けて自分の家族でできることを具体的に書いた提案書を作らせる。 ・自分を含め家族で食生活の改善が実践できているか，朝や帰りの時間等に声をかけるように心掛ける。 	<p>知・理 (提案書・日記 ・実行計画書 ・家族の感想)</p>

<p>16 学習全体を振り返り，自分の成長を確かめる。（1h）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のファイルを見て，学習を振り返る。 友達とファイルを見せ合い，互いの良さを教え合ったり，まとめ方などについてのアドバイスをしたりする。 全体で，これまでの学習を振り返り，子ども一人一人の成長を賞賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族に提案書や家庭での実践等について，子どもを伸ばす意味での感想を書いてもらうことにより，子どもの学習意欲を高める。 これまでの学習の足跡が残されているファイル(ポートフォリオ)をじっくり見る時間を確保することにより，自分が学習してきたことを振り返らせ，成就感・達成感・満足感を味わせるとともに，この学習で身に付いた力について確認させる。 数名の友達と，ファイルを見せ合いながら，自分では気付かない互いの成長を教え合うようにする時間を確保する。 教師は，次の活動につながるコメントを書き入れたり，言葉掛けをしたりする。 	<p>思・判 （日記 ・ワークシート）</p>
---	--	---------------------------------